

なぜ自動車の運転をしたくなるのか—能力の獲得と自在な発揮*

Why Do We Eager to Drive a Car? — Acquiring and Fulfilling Functionalities

赤松 幹之¹⁾ 木村 元洋²⁾
Motoyuki Akamatsu Motohiro Kimura

We discuss positive mental states for car driving in the context of acquiring and fulfilling environment adaptability of human being. For car driving, we can obtain feeling of self-expansion, flow and engagement while performing driving abilities, feeling of leeway with sufficient margin of mobilized resource, feeling of latitude and accomplishment occurred by performing high driving abilities using the sufficient resource.

KEY WORDS Human Engineering, Driver Behavior
Driving Task, Environmental Adaptation, Fulfilling Abilities, Well-being C2

1 自動車は運転するもの

この5年間ぐらい筆者(赤松)には所有する車が手元にない状態が続いている。20年以上前の車なので、原因不明の不調があり、修理工場に入ったままである。そのために、運転するのは各種の代車やレンタカー、家族や友人・知人の車になっている。周りからは新しい車を買ったと言われていているが、あまりその気にならない。なぜなら、自動車というモノを所有したいのではなく、自動車を運転したいだけだからである。運転ができれば自動車であればどれでもよいのである。実際のところ軽トラックでもよいし、パワーが小さい車でもまったく構わない。どれでも運転するのが好きである。このように、筆者自身が自動車の運転が好きであることに疑問の余地はない。では、なぜ運転が好きなのであろうか。運転が楽しいから運転が好きであると考えがちであるが、楽しみのために運転しているのではなく、運転したいから運転しているのである。やりたいことをやっているから、楽しいとを感じるのである。

楽しいとは快の感情であるとする人が多いが、感情の種類などの感情研究での概念にとらわれるのを避けるために、ここではポジティブな心

的状態とする。Positive という語は posit から来ており、posit とは「置くこと」である。すなわち、Positive とは、その状態にあることが人間にとって積極的に受け入れるべき状態であることを意味する。この“良い”と感じる心的状態が生まれることで、その状態になるための行動が強化され、その行動が起きやすくなる。すなわち、やりたいという感じが起きるのである。では、何が人間にとって“良い”状態なのであろうか。

2 能力の獲得と発揮とウェルビーイング

腹筋を鍛えていると気づくが、何かが少しくあるようになる。ひたすらそれを繰り返して動くことがない、小さな穴に足を落とすこと、叩いて音を出すこと、腹筋を腹筋上げること等々、目をササササササながら何故でも繰り返す動作をしていると、腹しそりにも見えるが、腹しそりからというより、中をたぐってやっているように見える。

人間は欲望動物である故をもつて、その大きな欲の1つで、満たされている環境に居たがる傾向を有することである。この環境に満足するための新しい行動を獲得することが人間環境の獲得といえる¹⁷⁾。故郷の行動の場を失いからぬことは、存在能力を獲得して、環境適応のための行動を獲得することが人間として「やるべきこと」あるいは「やるたい」ことである。その行動の成功が「楽しい」となるようである。ポジティブな心理状態によって強化されることで環境適応が促進されると思われる。

最近ではセルビーイングに多くの関心が寄せられている。セルビーイングは幸福と同義とされることも多いが、正しくは「生き残る」とあるいは「生き残る」である。他の訳語が「生き残る」であるという考え方は誤解を醸成(*Endorsement*)と呼ばれる現象を醸成はわかりやすいが、それだけを追求すると弊害になる危険がある。この現象を醸成に対して、アシストランスは*Endorsement*を説明した²⁷。Itaとは悪いことを指し、*daimon*は守護神あるいは魔である。アシストランスは魔とその支配を中心にしたが、その現象点は、人間が強く生きるとは人間が本来もっている能力(能力/本能)を抑制すること、という考えである。

人間というものはその環境・能力をすべて獲得しているわけではない。ある環境に置かれることで、あるいは学習や訓練によって、潜在能力が顕在能力となってその表が現れてくる。人間がもっている潜在的な特性を効果に能力として表現させて十分な環境とすることを *Nature Fulfillment*、あるいは潜在化している能力を顕在化させる (*Actualizing*) ことを、*Personal Expressiveness* あるいは *Self-fulfillment* などと呼ぶ^{29,30}。よく知られているマズローの自己実現も本来はこのことを意味している。このように、自分がもっている潜在能力から能力を顕在し、その能力を発揮することが人間にとっての「真の」ことであると考えられる。子供ばかりでなく、大人も自分の潜在能力から新しい能力を顕在していくことが、生き残るためにやるべきことなのである。この人間が生きることの本質ともいえる能力の顕在と発現という観点から教育活動を考えてみよう。

3 自動車運転という能力の獲得による自己拡大

人間がもつ運動のための能力は3本の足での歩行である。足は自動化したバネ・ジョイント・システムによって歩行動作という運動機能を発揮する。歩行方向を定めること、および運動の方向や速度等を決定するために感覚の機能が発揮される。歩行の成立を促す機能は歩行感覚や運動系によって発揮される。これが、人間が本来もっている運動のために発揮される機能である。

そして、協定の未実施の国には制裁がある
協定を履行しない国は、果たしてこんなことを許す

動車の運転をしたくなるのか—能力の獲得と自在な発揮

の出来る身体を自分が運動できるようにするのだから、と不安に思うであろう。しかし、練習によって運動ができるようになる。手や腕の運動機能を使ってハンドルへの力の入れ加減を調節して、車両の進行方向を変える能力を獲得する。足の運動機能を使ってペダルの踏み込みを調節して、加速や減速の程度をコントロールできる能力を獲得する。目撃者の事例は人と比べることで何もなく大抵だが、調節、報酬、調整機能などの感覚機能をjついで、車両のサイズと道路との位置関係を知覚する能力を獲得できるようにする。車両の感覚は、道路状況の動きやオブディクルアロー(調整上の道の流れ)を手掛かりとして知覚する。これらの能力を獲得することによって自動車運転ができるようになる。

自動車運転とは、自動車を通して道路・交通環境とインタラクションすることである。運転の練習においてインタラクションをしながらもともと持っている身体能力を引き出して、あらたに運転という能力を獲得することができたのである。自動車に限らず、さまざまな道具や機械システムの使用も同様で、それまでできなかった機能を、身体能力を引き出して獲得することになる。ホビー・ゲームという性質があるように、道具を使って機械動作をする人間にとってあるべき姿であり、強化すべき状態である。そのために、多くの人は道具を使いこなしていると感じているのである。

環境適応のために高い機能を獲得して自己成長を拡大したいと感ずることを、心身学者の Joffe や Aron は自己拡大動機 (Self-expansion Motivation) と呼んだ^{29,30}。自我意識が強いようになると、自我意識をコントロールしてこれまでにはできなかった遠くまでの経験の能力を獲得した状態であり、大きく自己拡大がなされた状態と感ぜられる³¹。この大きな自己拡大の感には自我意識の増進にポジティブな心的状態として表れている。

4 タスク・ディマンドと能力発揮とのバランスをとる自動車運転というインタラクション

人間のインタラクティブ性は、中絶の意思決定に依りて人間態度を顕現してその意思を遂行する点に在り。意思決定として中絶の意思決定は